

平成21年11月17日

文部科学大臣
川端 達夫 殿

SPring-8 利用者懇談会
会長 佐々木 博
(東京工業大学 教授)



SPring-8 における放射光実験ビームタイムの確保に関する要望書

11月13日の行政刷新会議の事業仕分におきまして、SPring-8の予算が大幅に縮減されるという結論が伝えられ、SPring-8利用者の間に大きな不安が広がっております。

国家予算の収支バランスを均衡とれたものに導くことが緊急の施策であることは十分に理解しておりますが、将来の人類社会の発展のためには、たとえどのような状況下であっても、わが国の科学技術の水準を維持発展させていくことが必要不可欠であると考えております。そして先端的大型研究基盤施設として国費で建設・運営されている SPring-8 は、日本の科学技術の底辺を支える強力な基礎研究施設として、また、大学や各種研究所に散在する研究者が共同利用できる研究基盤として、日本になくてはならない確固たる研究拠点であると位置付けられます。実際に、学際領域を含む幅広い分野の研究を牽引する先導的な設備を有するとともに、わが国の大型研究施設での「共同利用研究」のモデルケースとなっています。

SPring-8の使命は科学技術基本法に基づき放射光科学の推進であり、その内容は、先端的科学・技術分野の促進、放射光利用技術の開発とその社会への還元、科学・技術水準の総体的向上などであると理解しております。いずれの使命も一朝一夕に達成できるものではなく、また放射光科学分野単独で出来るものでもありません。大学共同利用研究機関などと併せて、SPring-8の共用がわが国の研究基盤の強化に重要な役割を果たしていると日本学術会議も認めております(平成15年7月)。また、国際的な視点でも、科学技術に係る知識の集積が人類共通の知的資産であるとの認識から、多数の研究者が利用する大型研究施設は、オープンアクセス、成果の公開および無償利用を原則としています。

SPring-8利用者懇談会の構成会員は多岐の分野にわたりますが、多くは大学教員です。大学教員が研究を進めるにあたって、SPring-8を利用するのは不可欠な状況です。また、SPring-8は研究機関であると同時に、次世代の科学技術研究者育成のためのかけがえのない施設であり、SPring-8はその使命を十分に発揮しております。万一、放射光実験が行えないような事態になりますと、潜在的に独創的才能を有する若手研究者の多くが放射光利用の機会を奪われ、特に全国の大学院生が高度な教育訓練を受けられなくなるのではないかと危惧されます。

今回 SPring-8 の運営について検討される際には、研究・教育活動が十分に推進でき、真に優れた研究成果を挙げられる施設として、ビームタイムを確保するための十分な経済的支援と適切な事業や制度を構築されますよう、強く要望いたします。